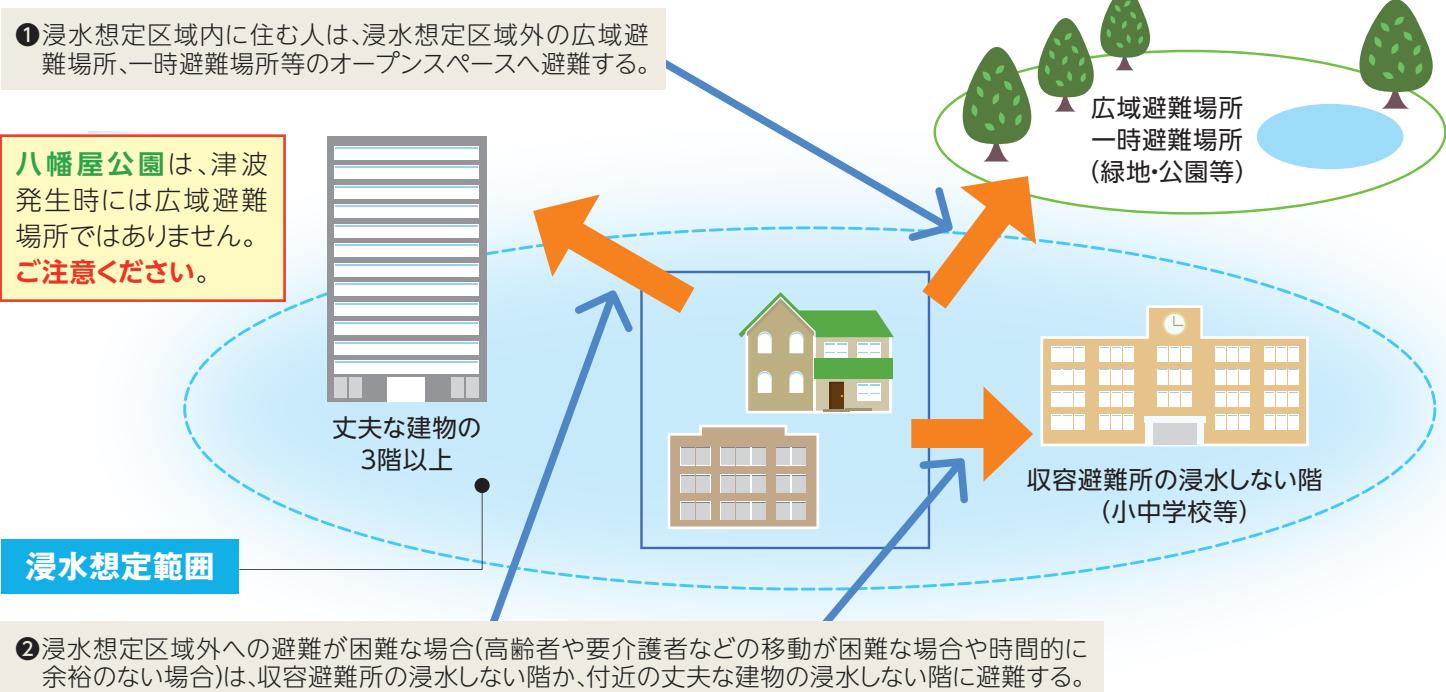


大阪市における津波避難の基本方針



非常持ち出し品の準備をしよう

リュックサックなど両手が自由に動かせるものに次のようなものを準備し、いつでもすぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。家族構成を考えて必要最小限に絞り込み、一度背負ってみましょう。また、少なくとも年に一度は点検しましょう。

基本品目32点(大人2人分の目安)

下図以外にも必要と思われるものを持ち出せるよう、非常災害リュックに詰めておきましょう。

- 非常持ち出し袋.....1袋
- 缶入り乾パン(110g)…2個
- 飲料水(500ml).....6本
- 懐中電灯.....2個
- ローソク.....2本
- ライター.....2個
- 携帯ラジオ.....1台
- 十徳ナイフ.....1本
- 軍手・手袋.....2組
- ロープ(5m～).....1本
- レジャーシート.....1枚
- 救急袋.....1枚
- 毛抜き.....1本
- 消毒液.....1本
- 脱脂綿.....適当量
- ガーゼ(滅菌).....2枚
- 絆創膏.....10枚以上
- 包帯.....2巻
- 三角巾.....2枚
- マスク.....2枚
- 常備薬・持病薬など.....適当量
- サバイバルプランケット.....2枚
- 簡易トイレ.....2枚以上
- タオル.....4枚以上
- ポリ袋.....10枚
- トイレットペーパー.....1ロール
- ウェットティッシュ.....2個
- 現金(公衆電話用)…硬貨50枚
- ガムテープ.....1個
- 油性マジック(太).....1本
- 筆記用具.....1セット
- 生理用品



家庭に備えておくもの

避難後に少し余裕がでてから安全を確認して自宅へ戻り持ち出したり、自宅で避難生活を送るうえで必要なもので、救援物資が届くまでの3日間程度、自足するつもりで備えましょう。

非常準備品

飲料

- 飲料水(2ℓペットボトル)

食料

- 乾パン
- インスタントラーメン
- 缶詰類
- キャンディー、チョコレート
- ラップ

生活用品

- 毛布
- 雨具
- 予備電池
- 卓上コンロ
- 携帯電話の充電器
- 使い捨てカイロ



津波から身を守るために

津波の特徴



● 早く力が大きい

深海での津波の早さはジェット機なみです。沿岸部でも短距離選手なみのスピードがあります。また、くるぶし程度の波でも力が大きく、立っていることができません。

● 繰り返しやってくる

津波は繰り返しあそってきます。警報、注意報が解除されるまで海岸に近づかないようにしましょう。東南海・南海地震では、約6時間にわたって大きな津波が繰り返すと予想されています。

● 引き波があるとは限らない

津波が来る前には、引き波があると言われることがあります。前触れなく津波が来ることもあります。

津波避難のポイント

津波から身を守るためには、少しでも早く、高いところに避難しましょう。

● 火元などの確認

避難する前に、必ずガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切りましょう。

● 援護が必要な方は早めに避難を

高齢の方やお子様、身体の不自由な方などで援護を必要とする方は早めの避難が必要です。また、ご近所の方は援護を要する方に声をかけ避難の準備を手伝うなど、避難にご協力お願いします。

● 「遠く」より「高く」に

既に浸水が始まってしまった場合は一刻を争います。「遠く」よりも「高い」場所に避難しましょう。

近くのマンションやビルの浸水しない階に避難しましょう。



● 避難に車は使わない

車で避難することはやめましょう。自動車は浸水や道路の不通で動けなくなる場合があります。また、防潮鉄扉の閉鎖に向かうなどの緊急車両の通行にも支障が出ます。

津波時の浸水深さの目安

平成24年8月に発表された内閣府における「南海トラフ地震・津波の想定結果」

地震の名称	地震規模 (マグニチュード)	港区で想定される被害等				
		震度	大阪港への到達時間	津波の高さ	波の高さ	浸水面積 (1m以上)
南海トラフ	9	6弱	120分	2.2~3.1m	O.P+4.4~5.3m	10ヘクタール

※O.P:Osaka Peilの略称で、大阪湾沿岸淀川流域の測量の基準(O.P+0.0mは、大阪湾最低潮位)

